

道徳便り



金沢錦丘中学校
令和4年6月16日(木)

6月の道徳 『風に立つライオン』(人間の気高さ)

あらすじ

「風に立つライオン」は、さだまさしさんが実在した医師、柴田紘一郎さんをモデルに作った歌です。柴田さんは1971年から2年ほどケニアの診療所で医療に従事していました。歌詞の中では、アフリカの自然や人々の美しさと同時に、恋人を日本に残して過酷な環境で医療に従事することの大変さも垣間見られます。困難に立ち向かいながら、自分の使命を果たそうとする柴田さんの決意や生き様から多くのことを考えさせられます。

空を切り裂いて落下する滝のように
僕はよどみない生命(いのち)を生きたい
キリマンジャロの白い雪 それを支える紺碧の空
僕は風に向かって立つライオンでありたい



- この話を聞いて、自分が楽に生きられるかなどではなく、自分の夢を追いつけて、それが困難なことだとしてもやってみることが大切だと思ったし、そのためにも夢をもっておくことは大切だと思いました。
- 自分の意思を大切にすることが大事だなと思いました。自分の意見を伝えることは難しいけれど、尊重することで世界の誰かが救われるといいなと思った。
- 柴田さんの夢を思う気持ちの強さがとても心に響きました。自分の夢はいくつもあって、全てを叶えることは難しいのだとこの作品を読んで感じたので、自分がしたいことについて深く考える時は考え、思い切って行動するようにしたいと思いました。
- 自分のしたいことを貫き通した柴田さんがとてもすごいと感じました。何かを犠牲にして自分の夢を追いかけるということはとても辛いことだと思うけれど、私もよりよく生きるために、自分のしたいことをできるような強くて素敵な人になりたいと感じました。
- 自分がよりよく生きるためには、いろいろと失うものがあると思うけど、それでも「幸せです」と言い切れるのがすごいなと思った。
- 私には夢があります。まだその夢を叶えられるかということとはわからないけれど、この詩を読んで、これからその夢に向かって頑張る時には自分が何の役に立ちたいからこれになりたいのだということを思い出して、絶対に叶えたいと思います。そして、将来夢を叶えて自分の命を多くの人のために使いたいと思いました。

